



ことしば



1月号

【学校教育目標】

「挑戦し、未来を拓く『琴芝っ子』の育成」



あけましておめでとうございます



皆様お健やかに新年をお迎えのことと存じます。旧年中は、保護者、地域の皆様方には、ひとかたならぬご支援とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

昨年は目に見えない新型コロナウイルスに脅かされ、『新しい生活様式』に沿ってこれまでとは異なる方法を工夫しながら教育活動を進めてきました。「新型コロナが流行していなければ…」「制限がかけられなければ…」など複雑な思いをもちながらの学校運営でした。しかし、これまでの当たり前前に『慣れて』いる大人と違い、子ども達にとっては全てが未経験の新しいこと。過去と比べながらあれこれ愚痴を言ったところで、今の子ども達には何の役にも立ちません。子ども達は、その時々を一生懸命取り組み、日々確実に成長しています。『慣れる』ことはとても大切なことですが、一方で『慣れすぎて』しまうと、今回のような全く予測がつかない事態、突然の変化に対応できず、目標を見失って右往左往してしまうことになりかねません。

江戸時代の佐賀鍋島藩に伝わる『葉隠聞書』の中に『端的只今』という言葉があります。これは「人生は、『今』現在の一瞬に徹して生きるという一念が大事である。一瞬一瞬の積み重ねが一生である。」という意味です。私達も『端的只今』の心で、過去にとらわれず、今を大切に新しい変化に対応していきたいと思ひます。

まだまだ新型コロナウイルスの猛威は収まりそうにありませんが、新たな年を迎え、新型コロナウイルスの脅威に負けず、恐れず、油断せず、今を生きる子ども達に対して今できることを『牛』のごとく、一步一步確実に進めていきたいと思ひます。保護者、地域の皆様方には、今年が健康で幸多き一年となりますようお祈りいたしますとともに、本校教育に対しましても、倍旧のご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。



今年の干支は『辛丑』(かのと・うし) ～今年はどうな年?～

*『丑』は、「粘り強さ」「堅実さ」「誠実さ」を表す。また、子年に蒔いた種子の芽が種子の殻を破ろうとする状態を表す。

*『辛』は『新』という字につながり、植物が枯れて新しい世代が生まれようとする状態。

*『辛』と『丑』は、『相生』の関係(相手の力を生かし強め合う関係)にあるということです。

ということで、今年は『古きことに悩みながらも終わりを上げ、新しい芽生えを見出す年』になるようです。



校長のつぶやき

伝統は革新の連続 ～ コロナ禍の中での年末年始に思う ～

今年は、新型コロナウイルスの影響で、いつもとは異なる正月となりました。これまでは年明けとともに地元の神社に詣で、早朝から剣道の初稽古に出かけ、学生時代の部活OB会や同窓会で旧交を温め…、と慌ただしい年明けが常であったのが、今回ほど三が日をゆっくり過ごした年は初めてでした。しかし、元旦の初詣だけはと、例年と時間をずらして参拝しました。そこでもいろいろ新しいことが…。手水舎は柄杓が取り除かれて色鮮やかな花で飾られ、龍の口から出る水で直接手を清めるようになっていました。また、鈴緒は柱に結び付けられ、鳴らせないようになっていました。その代わりに、手をたたくと獅子が音を出して踊りだしたり、センサーに手をかざすと神殿の太鼓が打たれるようになっていたり、まさにICT時代を感じさせる工夫がなされていました。以前テレビの番組で、ある名匠が『伝統は革新の連続である』と話しておられたことを思い出しました。『伝統を守ることは大切だけれども、その時代時代に応じて変化していくことも、伝統を守るうえで大切なことだ』と。

新型コロナウイルスにより様々なことが制限され、中止・変更を余儀なくされましたが、それによってこれまで築いてきたものがなくなるのではなく、それらを守るために新たな方法を考え工夫することが大切なのではないのでしょうか。新型コロナウイルス感染症自体は一日も早い終息を願うばかりですが、だからこそ発見できた新しい年末年始だったなと思ひます。

